

平成29年12月5日

磐田市議会議長 増田 暢之 様

会派名 きずなの会

代表者 山田 安邦

会派行政視察研修等申請書

会派視察研修等の結果について、磐田市議会政務活動費の交付に関する規則第5条の規定により、下記のとおり報告します。

記

期 間	平成 29年11月13日(月)～29年11月15日(水) 3日間
視察先 研修会	日 程 (1) 11月 13日 (月) 11:00～12:00 13:30～15:30 (2) 11月 14日 (火) 13:30～15:30 (3) 11月 15日 (水) 15:00～16:30 ※15日の視察終了時間が午後4時半の為後泊。
参 加 議 員	山田安邦、鈴木正人、戸塚邦彦、小栗宏之
調 査 事 項	<p>【11月13日】</p> <p>① 北九州市役所 (093-582-2632)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境政策 (市民啓発の内容、環境モデル都市、環境未来都市選定の経緯) について <p>② 北九州市エコタウンセンター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次世代エネルギーパーク視察 ・リサイクルへの取り組みについて <p>【11月14日】</p> <p>嬉野市役所塩田庁舎 (0954-66-9127)</p> <p>嬉野市社会文化会館 (愛称:リバティ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会館の建設経緯について ・会館利用の現状と課題について <p>【11月15日】</p> <p>平戸市役所 (0950-22-3427)</p> <p>平戸市未来創造館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館と図書館の複合施設の現状と課題 について ・子ども図書館の現状について

会派視察研修等報告書

【調査内容】

平成 29 年 11 月 13 日 (月)

視察先：北九州市役所・北九州エコタウンセンター

面積：約 491.95 km² 人口：961,286 人(H27 年国勢調査) 世帯数：470,597 世帯

1. 環境政策

(1) 市民啓発の内容について

各種事業の推進 (エコタウン事業・エコタウンミュージアム・次世代エネルギーパーク・アジア低炭素化センター・環境モデル都市・環境首都検定・グリーン成長都市・響灘ビオトープ・北九州ニューグリーンフロンティア・SDGs) 等により市民啓発を実行している。

(2) 環境モデル都市について

平成 20 年度に、低炭素社会の実現に向け、高い目標を掲げて、先駆的な取組にチャレンジする都市として政府が第 1 号に認定した。

(3) 環境未来都市選定の経緯について

「環境未来都市」構想は、国の成長戦略に位置付けられた、21 の国家戦略プロジェクトの一つで、北九州市は、生活基盤向上ため、環境価値・社会的価値・経済的価値という 3 つの価値が創造されるまちをコンセプトに、人々の生活の質を向上させることを究極の目的として進めた。

2. 北九州市エコタウンセンター

(1) 次世代エネルギーパーク視察・概要説明

広大で安価な埋立地の活用により、既存産業集積地や学術研究都市が近接しており、学官の強力な連携のもと事業を進めている。エコタウン内各事業、複合中核施設、市内のリサイクル産業、さらに区域内の管理型処分場との連携・活用により安全・確実な処理を可能にしている。

(2) リサイクルへの取り組みについて

ペットボトル・OA 機器・自動車・家電・蛍光管・医療用具・建設混合廃棄物・非鉄金属・小型家電などのリサイクルを行い、ゼロミッションを目指して、原料として活用できる廃棄物は域内で相互に取引を行い連携を図っている。

(3) 蛍光管リサイクル (㈱ジェイ・リライツ)

事業所や一般家庭から排出される使用済蛍光管から、水銀・ガラス・金属・蛍光体を分別回収しリサイクルしている。

(4) 家電リサイクル (西日本家電㈱)

家電リサイクル法に基づき廃家電製品 (エアコン・テレビ・冷蔵庫・洗濯機) を高度に分解・選別し、鉄・アルミ・銅・プラスチックなどを回収してリサイクルしている。

【考 察】

北九州市の環境の歴史は、高度成長期の深刻な公害問題より、婦人部の「青空がほしい運動」を発端に市民・企業・行政の努力で公害を克服してきた歴史がある。公害克服のノウハウを国際協力に展開しリサイクルを推進、環境都市グランドデザイン・次世代エネルギーパーク・グリーン成長都市・環境首都検定、などの取り組みにより、市民は環境問題への意識が高く、市民と行政が一体となって地球規模の環境問題に取り組みチャレンジし続けている。時代とともに、市民主導から行政主導へと移行されてきてはいるが、各種政策により環境問題に対する住民意識はかなり高いところにあると思われる。環境問題を語るには、市民個々の意識を如何に高めるかが課題だと思われる。地球温暖化、資源・エネルギーといった環境問題とともに、人口減少や超高齢化など社会的な課題に対し、先進的総合的な意識をもって進める必要があると認識した。

会派視察研修等報告書

【調査内容】

11月14日（火） 13:30～

視察先：佐賀県嬉野市役所 嬉野市社会文化会館

所在地：佐賀県嬉野市塩田町大字五町田甲 628 番地 4

嬉野社会文化会館

会館の建設経緯について。

会館利用の現状と課題について。

- ・嬉野市は、平成 18 年 1 月 1 日に嬉野町と塩田町が合併して誕生した市。人口 27,000 人で佐賀県では 10 市中 9 番目の市。
- ・最初平成 14 年 7 月に 2 市 4 町による合併が検討されたが、最終的には 2 町での合併となった。
- ・合併前の塩田町には社会体育施設がなく、平成 18 年の合併後、両地区の一体性の確立と地域の均衡ある発展を目指しているが、旧 2 町間の整備水準にはばらつきがあるのは事実。よって塩田地区に社会文化会館の建設計画が始まった。
- ・平成 19 年より、15 名より成るリーディング審議会が組織され、社会文化会館の建設予定地について検討がなされ、平成 21 年には嬉野市社会文化体育館建設推進委員会が委員会を開催し平成 22 年 2 月に建設候補地が決定となった。建設候補地は市有地で旧塩田町中心部、隣接の公園やグラウンド、河川敷を駐車場として使用できる等が決定の決め手となった。
- ・建設候補地決定後、会館建設となった為、住民の希望を十分満足しているわけではなく、特に文化ホールは 293 席の固定席と 170 席の可動席の計 463 席であり、住民の希望であった 1,000 席には及んでいない。
- ・合併特例債を利用した施設の為、興行は開催出来ず、463 席が満席になる事は滅多にない。もっと多くの席が必要な大会等は広域にて他の施設を利用する事となっている。
- ・結果からみれば、平成 18 年の合併から平成 26 年までかけてやっと出来た念願の施設であり、住民の評価はこれから。住民から評価されるよう努力して行きたい。

【考察】

同じ程度の規模 2 町による合併の為、合併直後から旧 2 町間での綱引きが強く、議事録の記録にも平成 20 年には何度か嬉野市庁舎の移転問題が議会を賑わしている事がわかる。旧嬉野町の方が人口が多い為、嬉野市と言う名をとり、市庁舎は人口の少ない旧塩田町に置くことで合併に漕ぎつけたが、2 年で市庁舎を旧嬉野町に持って行こうとする動きがあったのであり、その時には市庁舎はそのまま、より権限の強い総合支所を旧嬉野町に作ることで落ち着かせている。そのような中、平成 18 年から平成 26 年までかけてやっとできた念願の社会文化会館であり、関係者の努力は並大抵の物ではなかったと思われる。建設を急ぐあまり、予定地を市有地で市庁舎近く、駐車場のとれる所としたとの事。まず建設予定地ありきとした為、市民の要望を十分に満足できていない施設を見る時、合併特例債に頼った施設整備であり、2 町の合併であったのかと思えてならない。市民の声が行政にどのくらい届いているのか不安である。

会派視察研修等報告書

【調査内容】

平成 29 年 11 月 15 日 (水)

視察先：長崎県平戸市 平戸市未来創造館(COLAS 平戸)

平戸市： 面積：約 235.08 km² 人口：32,156 人(H29.11.1 現在) 世帯数：14,149 世帯

公民館と図書館の複合施設の現状と課題

(1) 平戸市未来創造館 名称(COLAS 平戸：Citizens' Oasis with the Lively, Affectionate Space)

- ・当初の計画では(仮称)平戸市総合情報センターと称し図書館としての計画が中心。
- ・敷地：6,001.67 m² 鉄筋コンクリート造 2 階(地下 1 階)建 延面積：2,837.94 m²
- ・公民館部分：577.11 m² 図書館部分：1,285.01 m² 共用部分：975.82 m²
- ・総事業費：1,230 百万円(合併特例債、まちづくり交付金活用) 平成 27 年 8 月オープン

(2) 現状・施設利用について

- ・立地は平戸城に隣接し、平戸瀬戸(海)を一望できる最高のロケーション。利用者・来館者に好評。
- ・公民館と図書館の連携事業として、年 1 回『COLAS まつり』開催。
公民館の定期使用団体 40 団体が日頃の学習成果の発表、図書館が担うブックリサイクル、各種お話し会
こどもクイズ大会、ちゃんこ鍋等の屋台等。平成 29 年度は 6 月 10・11 日で延 2,500 人以上の来館者。
- ・公民館としてはステージ付きのホールがなく利用・催しには限りがあるが、利用者の作品展示スペースや
飲食コーナー等も工夫されていて各種活動等に使用されている。(観光客の休憩の場としても)

(3) 子ども図書館について

- ・未来創造館の図書館内に子ども向けのスペースを設置、乳幼児・幼児・子ども向けの本を揃えている。
- ・お母さんと乳児・乳幼児を対象とした「おはなし会」を定期的に開催。(職員・ボランティア)
- ・「絵本はじめましてブックスタート事業」地域に生まれた赤ちゃんを対象に平戸市が行う母子保健事業の
乳児健康診の待ち時間を利用して、平戸図書館・永田記念図書館の図書館職員が絵本の読み聞かせ等の
話をしながらブックスタートパック(絵本 2 冊が入った袋)を手渡し。(全国的に行われている)
- ・地域(図書館へのアクセスが不便な)支援センター機能、学校図書館支援(連携)センター機能。
- ・「図書館を使った調べる学習コンクール」小学生以上対象に図書館を使って調べ、まとめた作品を募集。
上位作品を図書館振興財団が主催する全国コンクールに推薦。

(4) 課題について

- ・バス停から離れていて施設へのアクセスが不便(特に高齢者の徒歩による利用)。
駐車場の狭い(普通車 77 台・大型 2 台・平戸城観光駐車場と共用。)
- ・休日の職員等の配置について。

【考 察】

平戸市未来創造館(COLAS 平戸)は公民館(平戸北部公民館)・図書館(平戸図書館)・平戸市少年センターを
合わせた複合施設で図書館内には子ども図書館の機能も備えている。建設計画の過程では住民説明会を各地で
開催し、議会でも説明・議論がされた。新しい施設ではあるが平日の利用者(親子・高齢者)の利用が少ないよう
に思えた。駐車場のスペースについては当初の計画(地下駐車場も設置する)は実現せず現状の課題となっ
てしまったとのこと。(H28 年度より一部市所有のバスによる送迎サービス事業を開始)

本市においても(仮)子ども図書館設置事業が進められているが、特徴・魅力ある施設づくり、利用サー
ビスの充実・専門化、職員の配置等の検討、また施設へのアクセス、交通機関・駐車場の充実が利用者にと
つての利便性向上・利用頻度向上には必要であると認識した。